

# 令和7年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 16	公益目的事業 19
主査名	岩尾詠一郎 専修大学教授	
研究テーマ	ラストマイルにおける配送サービスの変化と都市郊外部の物流対策	
<p>近年の高齢化の進展や情報技術の発展などの社会の変化によって、消費者の購買行動が変化し、配送需要が増加している。この一方で、再配達増加や貨物自動車のドライバー不足なども含め、従来と同様な配送サービスの実施が困難となっている。また、都市郊外部（地方都市や中山間地域）においては、公共交通の運転手の不足等により、公共交通機関の減便や廃止などが発生している。公共交通機関の減便や廃止は、これら交通機関を利用して住民の移動が制限されることになる。そのため、着荷主（消費者）が指定した場所までの配送が増えることも想定される。特に、中山間地域においては、過疎化が進展しており、配送需要が減少している中で、最終届け先まで、どのような方法で商品を提供するかが求められることになる。</p> <p>そこで本研究では、都市郊外部（地方都市と中山間地域）に焦点を当てて、発荷主や配送事業者が検討すべき配送サービス水準（時間指定、当日配送、再配達無料など）の変更可能性、着荷主（消費者）の受取場所（玄関、玄関前、コンビニ、宅配ボックス、宅配ロッカーなど）の変更などが配送に与える影響、および端末物流対策を明らかにする。</p> <p>具体的には、社会の変化として、高齢化の進展、過疎化の進展を取り上げ、これらの社会の変化が、地方都市や中山間地域への配送に与える影響（1輸送当たりの配送個数の減少、配送回数の増加など）を明らかにする。次に、これらの社会の変化においても、配送事業者が、現在のサービス水準（配送頻度、時間指定など）で着荷主（消費者）に配送サービスを提供する場合の課題（非効率な配送、複数回の配送など）を明らかにする。そして、配送事業者が経営を継続できる範囲での、持続的な配送をおこなうための配送サービス水準の設定の考え方を明らかにする。さらに、着荷主（消費者）の受取場所（玄関、玄関前、コンビニ、宅配ボックス、宅配ロッカーなど）を変更した場合の配送に与える影響も明らかにする。最後に、都市郊外部（地方都市と中山間地域）において、配送事業者が配送サービスを実施する際に必要となる端末物流対策（ハードな対策：附置義務駐車場、宅配ロッカー、配送ロボット、曜日指定、時間帯指定など）も明らかにする。</p> <p>これらの分析を通して、地方都市や中山間地域における配送サービス水準の設定方法が明らかとなる。</p>		